

平成23年度体育科教育にかかわる現状と課題

部長 齋藤 多美子

1 体育科教育の動向

【上越地区】

上越市学校教育研究会・保健体育部会では、**上越市立谷浜小学校 清水貴之教諭**の指導のもと、2年体育「マット運動遊び」の授業研修会を実施した。(1)単元計画・学習過程の工夫 (2)多様な動きが身に付く場の工夫 (3)かかわりが増えるような授業の構築、の3つの手立てを講じた。その結果、子どもの運動意欲が引き出され、進んで新しい動きに挑戦しようとする姿がみられた。また、この研修会には中学校の保健体育科担当教諭も参加し、小・中連携を図る場としても有効に活用された。

【中越地区】

十日町市・中魚沼郡小学校教育研究会・体育部会では、**十日町市立千手小学校 和田望教諭**の指導のもと、5年体育「回転技にチャレンジしよう」(鉄棒運動)の授業研修会を実施した。2,3人のグループで、ペア学習カードを活用しながらアドバイスをし合い、かかえ込み回りや片膝かけ回転の技の上達に努めた。話し合い活動と運動量のバランスがよくとれており、また、技ができた時にはハイタッチするなど、仲間意識がよく表れた素晴らしい授業であった。

【下越地区】

村上市小学校教育研究会・体育部では、**村上市立西神納小学校、南波裕教諭**の指導のもと、5年体育「フラッグフットボール」(ボール運動)の授業研修会を実施した。協議題を「体育授業における言語活動の充実について」とし、活発なグループ協議が行われた。「チームの作戦を成功させるために話し合う。」「技能を向上させるために伝え合う。」といった、体育授業の中での言語活動の位置づけについて共通理解を図ることができた。

【新潟市】

新潟市小学校教育研究協議会・体育部では、研究主題を「楽しく運動し、技能が身に付く体育授業を目指して」とし、指導主事による提案授業1回、実技講習会2回、授業研究会8回を実施した。一年次の課題を踏まえ、運動の特性に触れさせることを一層重視し、「何を、いつ、どのように教えるか」「何を、いつ、どのように考えさせるか」を明確にした指導のあり方に焦点を当て研究を深めている。219名の会員が主体的に研修に取り組み充実した活動となっている。

2 体育科教育の課題

- (1) 運動する子としない子の二極化が依然みられる。運動しない子の意欲を引き出し、運動の楽しさや喜びを味わわせていくことが課題である。
- (2) 指導内容の体系化を受け、いつ、何を指導するのか、どのようにしてそれらを学ぶのか、2学年間を見通した指導計画の作成または改善が必要である。
- (3) 体力向上を推進するに当たり、生活リズムの向上や食の充実等、基本的な生活習慣の確立が不可欠である。家庭や地域との連携強化が重要である。